2023年度（第48回）学術研究振興資金　公募要領

１．趣旨

本資金は、広く社会一般から受け入れた寄付金を基金として運用し、その運用益を社会的要請の強い優れた学術研究に助成することで、私立の大学、短期大学及び高等専門学校（以下「私立大学等」という。）の特色ある学術研究の発展に寄与することを目的としています。

２．交付する資金の総額

2023（令和5）年度に交付する資金総額は8,000万円（予定）です。

なお、2022年度 学術研究振興資金の採択状況は、下表のとおりです。

〔参考〕2022年度 学術研究振興資金　採択状況

区　　分		応募件数	採択件数	採択率（%）	資金交付額（万円）
新規・継続別	新規	114	23	20.2	4,520
	継続2年目	14	10	71.4	1,950
	継続3年目	14	8	57.1	1,600
学校種別	大学	138	41	29.7	8,070
	短期大学（高等専門学校を含む）	4	0	0	0
研究区分別	人文・社会科学系	36	10	27.8	800
	理工系、農学系	43	12	27.9	2,350
	生物学系、医学系	63	19	30.2	4,920
合　計		142	41	28.9	8,070

３．対象となる研究分野

(1) 人文・社会科学の研究（「人文・社会科学系」）

(2) 自然科学の研究（「理工系、農学系」、「生物学系、医学系」）

４．対象となる研究

次の2つの要件を満たす研究です。

① 私立大学等（研究所の研究を含む。）に所属する研究者（教職員）が、2人以上で共同して行う研究であること。ただし、研究代表者は、当該私立大学等の専任教職員であること。また、研究代表者以外の1名以上の研究者は、私立大学等（他法人設置でも可）に所属する研究者（非常勤教職員でも可）であること。

② 令和５年４月１日現在で１年以上の研究実績があること。

５．応募

(1) 私立大学等１学校につき、１件応募することができます。

(2) 応募の際は、学校法人理事長及び学(校)長の「推薦書」が必要となります。

(3) 同一法人で複数の私立大学等を設置している場合は、それぞれの学校ごとに１件応募することができます。

※公的研究費（「科学研究費補助金」等）の不正使用を行ったとして、当該研究費が令和５年度に交付されない研究者が含まれる研究は、応募できません。

６．継続交付

本資金の交付対象になった研究については、当該研究の進捗状況に応じ、最初に採択されてから、最初の年を含め３年、応募をすることができます。ただし、選考は毎年行われるため、**継続して採択されるとは限りません**。

４年目以降の応募はできません。

７．応募に必要な提出書類等

以下(1)～(4)の様式を、本事業団電子窓口の公開電子ファイル一覧のフォルダ（「寄付金課」⇒「学術研究振興資金」⇒「2023 年度　公募様式等」）から取得し、作成、提出してください。

(1) 学校法人理事長及び学(校)長連名の推薦書（様式 1）

(2) 2023 年度（第 48 回）学術研究計画調書（様式 2-1～様式 4-2）

(3) 事務担当者名簿

(4) 応募書類記入チェックリスト

なお、電子窓口には、(1)～(4)の様式をファイル形式(Word 形式又は Excel 形式)ごとにまとめて掲載しております。

※書類の提出方法については、4 頁の「16.応募書類の提出方法」をご覧ください。

８．対象経費

資金の対象となる事業の経費（以下「対象経費」という。）は、次の範囲とします。

(1) 応募学校法人が令和５年度中に支出する当該研究に要する教育研究経費及び設備の取得価額、アルバイト賃金が対象となります。なお、研究者の給与や当該研究に直接必要とは認められない机・椅子等の什器の取得は経費の対象にはなりません。

(2) 当該研究に「科学研究費補助金」、「国又は地方公共団体の補助金」が交付されている場合は、その補助金額を当該研究に要する経費から控除した額を、対象経費とします。

(3) **60 万円以上**の対象経費（法人の負担額 30 万円以上）が必要です。

９．資金交付額

対象経費の 2 分の 1 以内とし、単年度において、自然科学分野は 600 万円、その他の分野は 300 万円を上限とします。

なお、採択された場合においても、資金交付内定額が交付希望額を下回ることがあります。

10．学校法人の研究費負担額の取扱い

(1) 当該研究にかかる学校法人の研究費負担額（以下「法人負担額」という。）は、**資金交付希望額と同額以上が必要**です。

(2) 採択され、資金交付予定額が希望額を下回る場合であっても、応募時に予定した法人負担額は減額しないようにしてください。

学術研究振興資金の「対象経費」は、当該研究にかかる経費として使用し、当該研究以外への使用や架空取引等の不適切な使用とならないよう、学校法人の適正な管理及び執行をお願いします。

本資金の不適切な使用等が行われた場合は、返還や応募資格の停止など、厳正な措置を講じることになりますので、ご留意ください。

詳細は、「2023 年度 学術研究振興資金」の公募等にかかる Q&A 50、51 をご覧ください。

11．審査方法

提出された学術研究計画調書をもとに、「学術研究振興資金選考委員会」において、(1)研究目的　(2)研究計画　(3)研究の独創性　(4)研究遂行能力　(5)研究費の妥当性 等を、総合的に評価し、決定します。

12．採択の内定時期

採択・不採択の通知は、令和 5 年 3 月上旬に学校法人に送付します。あわせて、採択された学校法人に対し、交付の申請手続きについてご案内しますので、期日（4 月上旬を予定）までに交付の申請を行ってください。

13．資金の交付時期

令和 5 年 5 月下旬に学校法人に交付（送金）予定です。

14．会計処理

資金の交付が決定した場合は、その額を令和 5 年度の予算書及び計算書類において、大科目「補助金（収入）」に小科目「学術研究振興資金（収入）」を設けて計上してください。

15. 実績報告

資金が交付された場合、令和５年度決算終了後に「実績報告書」等を提出していただきます。提出時期、様式等については、令和６年５月末頃に改めて通知します。

16. 応募書類の提出方法

(1) 様式 1～様式 4-2、事務担当者名簿、及び応募書類記入チェックリストの電子ファイルを、本事業団**電子窓口の公開電子ファイル一覧のフォルダ（「寄付金課」⇒「学術研究振興資金」⇒「2023 年度　公募様式等」）**へ様式ごとに提出してください。

(2) 必ず、今年度電子窓口から取得した様式に記入し、提出してください。前年度以前に取得した様式で提出することはできません。

(3) 電子窓口は、法人単位での提出となります。同一法人で複数の学校が応募する場合は、形式（Word、Excel）ごとに１法人１ファイルにまとめて提出してください。Excel 形式は、シートをコピーし、シート名に学校名又は研究者名を付してください（次頁もご参照ください）。

(4) 訂正等で再提出する場合、最初の提出と同様に再度電子窓口から提出していただくことで、再提出したファイルに上書きされます。

○ 提出期限　　令和 4 年 10 月 14 日（金曜日）

○ 提 出 先　　私学事業団電子窓口

○ 問い合わせ先

助成部 寄付金課　TEL　　03（3230）7319・7320
　　FAX　　03（3230）8223
　　E-mail kifukin@shigaku.go.jp

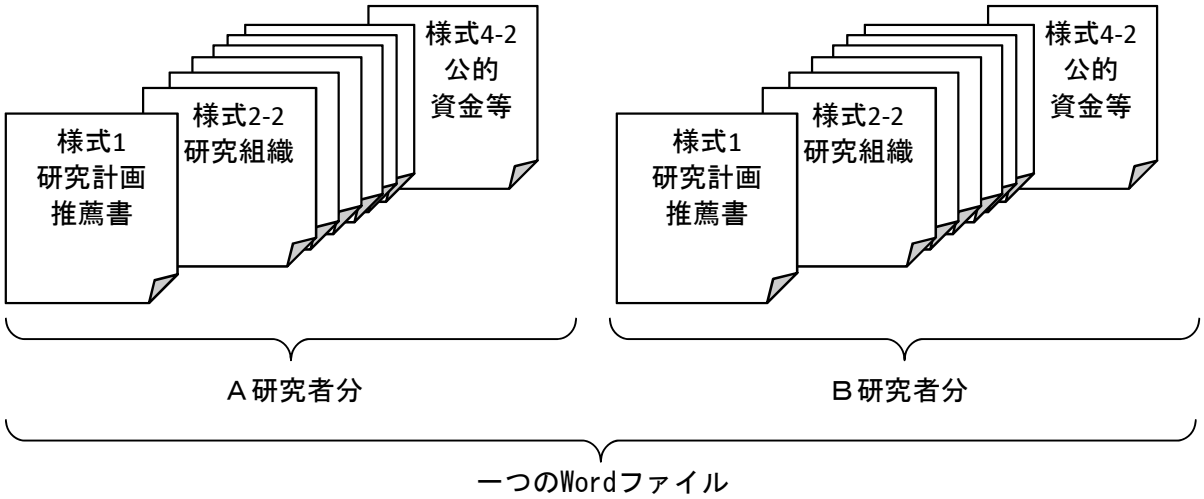
学術研究振興資金に同一法人で複数件応募する場合の研究計画調書等の作成について

電子窓口は、法人単位での提出となります。同一法人で複数の学校が応募する場合には、ファイル形式ごとに法人で一つに取りまとめてください。

別々のファイルで提出しますと、先に提出したファイルが、後に提出したファイルに上書きされてしまいますので、ご注意ください。

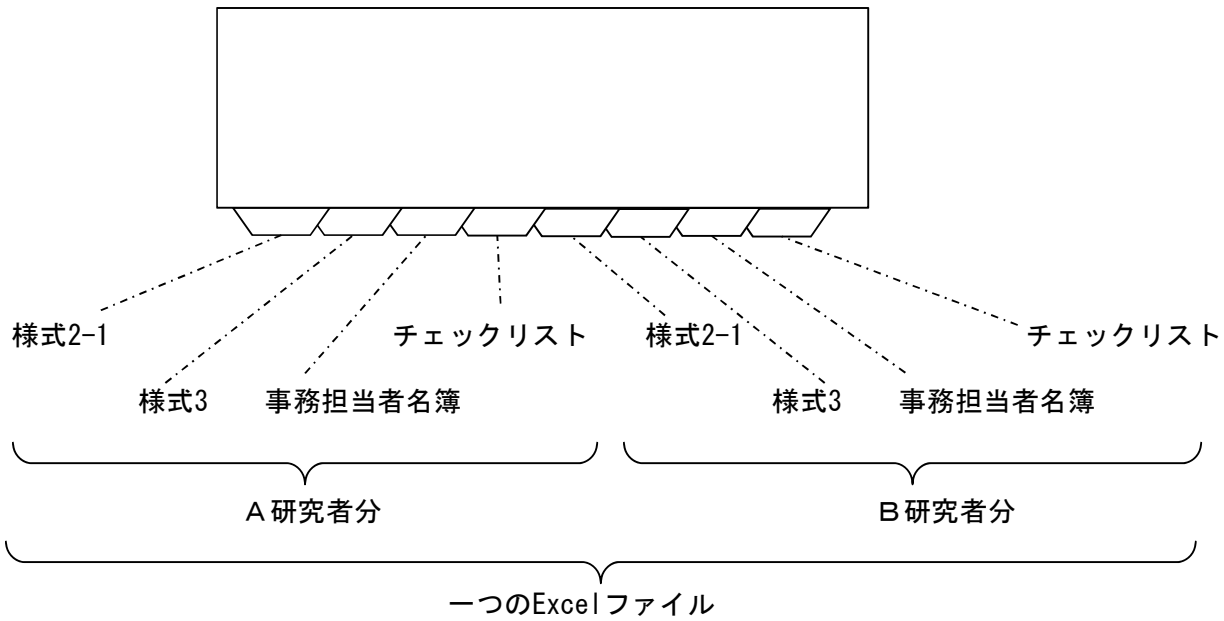
●Word形式のファイル

下図を参考に、研究課題ごとに作成した応募書類を、一つのWordファイルにまとめてください。
なお、ページ番号は付さないでください。



●Excel形式のファイル

シートをコピーし、シート名に学校名または研究者名を付してください。



「研究計画推薦書及び学術研究計画調書」記入要領

※申請にあたっては、**私学事業団電子窓口を利用**してください。

※提出書類となる以下の様式等は、本事業団**電子窓口の公開電子ファイル一覧のフォルダ（「寄付金課」⇒「学術研究振興資金」⇒「2023 年度　公募様式等」）**から取得してください。
各電子ファイルはMicrosoft Word 及びExcel（Windows 版）で作成しています。

※公募等にかかるＱ＆Ａも掲載しております。あわせてご参照ください。

※ライフサイエンスに関する研究については、法令、指針等で必要な手続きが定められています。17 頁「生命倫理・安全にかかる指針等について」もご確認ください。

○ 研究計画推薦書〔様式 1〕

推薦書は、学校法人名・学校名を記入のうえ、理事長及び学（校）長の連名で作成してください。

なお、応募申請は、本事業団発行の電子証明書を利用した電子窓口から受け付けますので、公印の押印は不要です。

※MS 明朝、12 ポイントで記入してください。

１．研究課題

研究課題は原則として**30 字以内**とし、補足が必要な場合は30 字以内で副題をつけてください。

2021（令和 3）年度又は 2022（令和 4）年度から資金の交付を受け、継続して応募する研究の場合は、**前回と同一の研究課題・副題**を記入してください。

２．研究代表者名

研究代表者の氏名（フリガナ）を記入してください。

研究代表者は、当該私立大学等の専任教職員であることが要件です。

３．推薦理由

当該研究の特色、社会的要請等を勘案し、記入してください。

○ 学術研究計画調書〔様式 2-1 ～ 様式 4-2〕

〔様式 2-1〕

※記入欄に初期設定されているフォント、サイズ（MS 明朝、10 ポイント又は 11 ポイント）で記入してください。なお、文字数の関係で枠に収まらない場合はフォントサイズを下げても構いません。

１．学校名

研究代表者が所属する私立大学等名を記入してください。

２．研究所名

私立大学等が付置する研究所での研究の場合は、研究所名を記入してください。それ以外の研究については空欄としてください。

３．研究課題・副題

〔様式 1〕研究計画推薦書と同一の研究課題と副題を記入してください。

４．キーワード

研究課題の内容を最も適切に表す語句を 8 つ以内で記入してください。語句の前には、①、②と番号を付し、できるだけ学会等で共通に認識されている語句を用いてください。

５．研究分野

18～19 頁の「学術研究振興資金　審査部門別系・分野表、応募研究別分科・細目表」から選択して記入してください。

原則として、選択された「系」及び「分野」により、審査を行います。

(1) 「系」は、［別表 1］審査部門別系・分野表から、審査を希望する「系」を選んで、「レ」チェックを付してください。

(2) 「審査分野」は、(1) で選んだ「系」の横に設定された「分野」の中から、審査を希望する「分野」を 1 つ選んで記入してください。

(3) 「分科」及び「細目」は、［別表 2］応募研究別分科・細目表から、それぞれ研究課題に該当するものを 1 つ記入してください。なお、本項目も審査の参考要素となります。

(4) 応募する研究課題が、複数の「分科」及び「細目」にかかる場合は、当該研究に占める割合が最も多い分科及び細目を 1 つ選択し、記入してください。

６．新規・継続

今回、本資金に初めて応募する、又はこれまで本資金に採択されたことのない研究を応募する場合は、「新規」に「レ」チェックを付してください。

2021（令和 3）年度又は 2022（令和 4）年度から資金の交付を受け、2023 年度も継続して応募する研究の場合は、当該研究に本資金が交付された年度から何年目の申請であるか、その年数に「レ」チェックを付してください。

なお、2021（令和 3）年度に資金の交付を受け、2022（令和 4）年度は不採択となった（又は応募をしなかった）研究の場合には「継続 3 年目」に「レ」チェックを付してください。

７．研究代表者

当該研究グループを代表し、研究計画の推進に責任を持つ研究者について記入してください。**研究代表者は、当該私立大学等の専任教職員であることが要件です**。

「所属」は、研究代表者が属している学部等名又は研究所名を記入し、「職名」は、教授、准教授、講師等の別を記入してください（原則として令和 4 年 10 月 1 日現在）。また、「研究者番号」については、府省共通研究開発管理システム（e-Rad）の研究者番号（数字 8 桁）を記入してください。なお、研究者番号を取得していない場合は記入不要です。

８．2023 年度資金交付希望額

〔様式 3〕の「2023 年度資金交付希望額」と一致します。

希望額は対象経費の 2 分の 1 以内の額とし、自然科学分野にあっては 600 万円、その他の分野にあっては 300 万円が上限です。

10 万円未満を切り捨て、「～00,000 円」のように記入してください。

なお、対象経費については、**『公募要領』**2 頁の**「8. 対象経費」**をご参照ください。

〔様式 2-2〕

※記入欄に初期設定されているフォント、サイズ（MS 明朝、10 ポイント）で記入してください。なお、文字数の関係で枠に収まらない場合はフォントサイズを下げても構いません。

１．研究組織（研究代表者・研究分担者）

研究代表者及び共同で研究を行う研究分担者について記入してください。研究分担者には、私立大学等に所属する教職員が必ず 1 名以上含まれていることが必要です。

「所属」には、研究代表者、研究分担者が所属している大学等名、学部等名又は研究所名を記入し、「職名」は、教授、准教授、講師等の別を記入してください（原則として令和 4 年 10 月 1 日現在）。

〔様式 2-3〕

※MS 明朝、11 ポイントで記入し、1 ページに収めてください（ページは増やせません）。
※強調したい部分にアンダーラインを付すことや、図や表の挿入も可能です。ただし、審査にあたっては、公平性の観点から、すべてモノクロ印刷で行いますので、ご了承ください。

１．研究目的

当該研究にどのような背景（有用性）があり、資金の交付を希望する年限内（3 年以内）に、何をどこまで明らかにしようとするのか、目標は何かが分かるようポイントをしぼり、具体的に記入してください。

２．研究倫理にかかる手続き

生命倫理・安全対策の観点から法令等に基づく手続きが必要な研究を扱う場合は、学内の委員会等の手続きについて記入してください。
(例:「○年○月○日 学内倫理審査員会において承認 承認番号 00000」など。)
なお、**手続きを必要としない研究の場合は「不要」又は「該当なし」と記入してください**。

※17頁「生命倫理・安全にかかる指針等について」もご確認ください。

〔様式 2-4〕

※MS 明朝、11 ポイントで記入してください。
※枠が不足する場合は適宜広げてください。ただし、**ページは 2 枚以内に収め、各ページの下に法人番号等の枠を設け、記入してください**。
※強調したい部分にアンダーラインを付すことや、図や表の挿入も可能です。ただし、審査にあたっては、公平性の観点から、すべてモノクロ印刷で行いますので、ご了承ください。

１．研究計画・方法・成果

研究について、3 年間の計画、方法及び成果を、研究の特徴が分かるように、具体的に箇条書きで記入してください。
2021（令和 3）年度又は 2022（令和 4）年度から資金の交付を受け、継続して応募する研究の場合は、当該研究に**資金が交付された年度**（2021 年度又は 2022 年度）から記入し、研究目的や当該年度の研究計画に照らして何をどこまで明らかにしたのか又は進行中なのかが分かるよう、その成果や進捗状況及び現時点での研究の達成度についても、記入例を参考に詳細に記入してください。
また、〔様式 3〕「当該研究の支出内訳」で記入した内容について、その経費がどのように使用されるのかについても、具体的に記入してください。
なお、支出合計の 90%を超える大きな割合の費目（特に機器備品費、修繕費、委託費、旅費、アルバイト賃金）がある場合には、当該研究における必要性、妥当性を踏まえて、記入してください。

※研究が 3 年間の継続ではなく、1 年間又は 2 年間で終了する場合は、**終了する年度の欄の最後に「本年度で終了」と記入してください。**

※2021（令和 3）年度に採択されて資金の交付を受け、2022（令和 4）年度が不採択となり（又は応募をせず）、資金が交付されなかった研究の場合、2023 年度は「継続 3 年目」となります。

※継続して応募する研究の場合、前年度応募時の〔様式 2-4〕は、審査にあたっての参考となります。

〔様式 2-5〕

※MS 明朝、11 ポイントで記入し、1 ページに収めてください（ページは増やせません）。

※強調したい部分にアンダーラインを付すことや、図や表の挿入も可能です。ただし、審査にあたっては、公平性の観点から、すべてモノクロ印刷で行いますので、ご了承ください。

１．研究の独創性及び従来の研究との相違点

当該研究の特色及び独創性、また、どのような社会的要請に応え、貢献し得るものなのか。さらに、従来の研究との相違点（従来の研究に補足されるのか、あるいは新たな組み立てがあるのか）等を、詳しく記入してください。

なお、従来の研究については、自己の関連研究の成果のみでなく、他の研究者あるいは研究グループによる、主な先行研究の状況・成果も示し、今回の申請とそれらとの差異を記入し、当該研究の位置付けが分かるようにしてください。

２．学術研究振興資金に応募する以前の研究経過・成果

新規で応募する研究の場合に記入してください。（2021（令和 3）年度又は 2022（令和 4）年度から資金の交付を受け、「継続 2 年目」又は「継続 3 年目」として応募する研究の場合は、記入の必要はありません。）

応募の要件として、当該研究について 1 年以上の研究実績が必要です。2022 年度以前に当該研究グループが行った当該研究の経過、実績を年度ごとに具体的に記入してください。

また、本資金に応募する以前の研究過程で、どのような研究資金をもとに研究を行っていたかについても具体的に記入してください。

〔様式 2-6〕

※MS 明朝、11 ポイントで記入してください。ページが不足する場合は、適宜枠を広げて、ページを増やしてください。**ページを増やした場合は、各ページの下に法人番号等の欄を設け、記入してください。**

１．研究業績

(1) 当該研究課題に関連の深い研究業績を、〔様式 2-2〕「研究組織（研究代表者・研究分担者）」に記載した研究者ごとに、主要なものを研究者 1 人につき 3 本（冊）まで選定し、最新のものから順に記入してください。

(2) 研究組織内の研究者が共同で執筆した共著論文等の場合は、重複記載がないよう、最初にまとめて記入してください。

(3) 研究業績には、著者名、編者名、出版者や巻号、発表論文名等の最初と終わりの頁を、記入例に倣って記入してください。

(4) 著者については、今回応募する研究課題の研究代表者には二重下線、研究分担者には一重下線を引いて区別してください。

(5) 共著の場合は、次の点に注意して記入してください。

・**責任著者については、今回応募する研究課題の研究者でない場合でも省略せず MS ゴシックで必ず**記入してください。

・著者名が多数にわたる場合は、主な著者を数名記入し、共著の著者数を「外○名」と記入してください。

・編者が多数にわたる場合は、主要な編者以外は「外○名」と記入してください。

(6) 研究業績には、学会口頭発表及び学会予稿集は含めないでください。

(7) 研究者 1 人につき 3 本（冊）の研究業績の記入にあたっては、以下のケース①～③に倣い、②、③に優先して①から最新の発表順に記入してください。

ケース①：様式 2-2 に記載した研究組織内の研究者が共同で執筆した共著論文等をそれぞれの研究業績として別々に記入せず 1 件にまとめて挙げる場合

ケース②：様式 2-2 に記載した研究組織内の研究者が共同で執筆した共著論文等をそれぞれの研究業績とするのではなく、1 人の業績として挙げる場合

ケース③：他の研究組織の研究者と共同で執筆した共著論文等や単著の研究業績を挙げる場合

研究業績は、「研究者氏名」の欄に名前が挙がった時点で 1 本（冊）のカウントとなります。「学会誌・雑誌名、著書名」欄、「発表論文名等」欄に挙がってもカウントに加えません。

研究者 1 人につき 3 本（冊）以内となるよう、記入にあたっては十分ご注意ください。

（例）研究代表者がＡ、研究分担者がＢ・Ｃ・Ｄの場合

	研究者氏名	学会誌・雑誌名、著書名	発表論文名等	発表年（西暦）
①	Ａ・Ｂ・Ｄ	○○○学会編「○○○学会誌」第 130 号	**A**, B, D「・・・」pp. 35-65	2022 年
①	Ａ・Ｂ	○○○学会編「○○○学会誌」Vol. 13	**A**, B, E, F 外 3 名「・・・」pp. 39-59	2021 年
①	Ｂ・Ｃ	○○○学会編「○○○学会誌」第 150 号	**B**, C, G 外 5 名「・・・」pp. 30-70	2021 年
①	Ｃ・Ｄ	○○○学会編「○○○学会誌」第 10 号	**C**, D, G「・・・」pp. 10-50	2019 年
②	Ａ	○○○学会編「○○○学会誌」第 140 号	**A**, B, C, D, E, F「○○○○・・・・・・・・・」pp. 36-46	2022 年
③	Ｃ	C, E 外 8 名, G 外 1 名（編）「××××」△△書房	第３章「×××・・・・・・・・・・・・・・・・・」pp. 50-62	2020 年
③	Ｄ	D「○○○○」□□出版社		2021 年

（注 1）「学会誌・雑誌名、著書名」「発表論文名等」欄の研究者名について、**当該著書等の責任著者をゴシック表記**、応募する研究課題の研究代表者を二重下線、応募する研究課題の研究分担者を一本下線としてください。

（注 2）この例では、②では応募研究メンバー4 名の全員が執筆に加わっていますが、左端の「研究者氏名」欄においてＡのみ業績として掲げているため、Ａの業績としては 1 件とカウントしますが、Ｂ、Ｃ、Ｄの業績としてはカウントに加えません。

２．当該研究に対する社会的評価

当該研究にかかる各種受賞歴や、新聞・図書・雑誌等への掲載などがあれば記入してください。

３．当該研究の研究成果公表の予定

当該研究の研究成果の公表予定について、具体的に記入してください。

〔様式 3〕

※MS 明朝、10 ポイントで記入してください。なお、文字数の関係で枠に収まらない場合はフォントサイズを下げても構いません。

１．当該研究の収入内訳

(1) 2021 年度（決算）及び 2022 年度（予算）並びに 2023 年度（推計）の各収入内訳を以下の応募の区分に従って記入してください。

① 新規の応募

当該研究については、1 年以上の研究実績が必要となります。2022 年度から研究を開始した場合は、2022 年度(予算)より記入してください。

2021 年度以前から研究を開始している場合は、2021 年度（決算）より記入してください。

なお、2021 年度・2022 年度において、当該研究に対する学校法人の負担額（学校法人からの研究費）がなく、民間助成団体からの助成金、国又は地方公共団体の公的機関の補助金、科学研究費補助金のみで研究していた場合も、各該当欄にその金額を記入してください。

ただし、民間助成団体からの助成金、国又は地方公共団体の公的機関の補助金については、研究代表者が受け入れる個人補助は除きます。

② 継続 2 年目の応募

2022 年度（予算）の記入にあたっては、原則として 2022 年 3 月に提出した配付申請書の内訳のとおり記入してください。

③ 継続 3 年目の応募

2021 年度（決算）の記入にあたっては、原則として 2022 年 7 月に提出した実績報告書の内訳のとおり記入してください。

2022 年度（予算）は、②と同様に記入してください。

なお、2021 年度に資金の交付を受け、2022 年度が不採択となり（又は応募をせず）、資金が交付されなかった場合には、当該研究に対する学校法人の予算額を記入してください。

(2) 2023 年度（推計）の「法人負担額（ｂ）」は、資金交付希望額と同額以上が必要です。

なお、「民間助成団体からの助成金（個人補助を除く）」は法人負担額に含めて記入するとともに、〔様式 4-1〕にその内容を記入してください。

※民間助成団体からの助成金が、申請はしていたが結果的に交付されなかった場合には、学校法人が相当額を負担することになりますので、ご注意ください。

(3) 各年度において、次の補助金のうち、すでに交付されているもの、現在申請しているもの、又は今後申請を予定しているものがあれば、その金額を記入するとともに、〔様式 4-1〕にその内容を記入してください。

① 「国又は地方公共団体の補助金（ｃ）」は、「科学研究費補助金」以外の国（「私立大学等経常費補助金特別補助」を含む。）又は地方公共団体の補助金で、**当該研究に対して交付され**、研究代表者が所属している学校法人が受け入れるもの（個人補助を除く）を記入してください。

② 「科学研究費補助金（外数）」は、**当該研究に対して交付されるもの**で、研究代表者が当該私立大学等に所属してから交付を受けた（内定、申請予定を含む）ものを記入してください。

※①②の補助金等を〔様式 3〕に記入することにより、当該研究の収入支出計画において、他の公的機関の補助金や科学研究費補助金と、本資金の対象経費について、会計処理の区分けを確認していただくことができます。

２．2023 年度資金の対象経費

「当該研究の収入内訳」にある 2023 年度（推計）の「資金対象経費（ａ＋ｂ）」を記入してください。なお、**対象経費は、60 万円以上（学校法人の負担額 30 万円以上）が要件**です。

３．2023 年度資金交付希望額

「当該研究の収入内訳」にある 2023 年度（推計）の「学術研究振興資金（ａ）」、及び〔様式 2-1〕の「2023 年度資金交付希望額」と同額になります。なお、「2023 年度資金の対象経費（ａ＋ｂ）」の 2 分の 1 以内とし、**10 万円未満を切り捨て、「～00,000 円」**のように記入してください。

４．当該研究の支出内訳

(1) 当該研究について、2021 年度（決算）及び 2022 年度（予算）並びに 2023 年度（推計）の教育研究経費支出、設備関係支出、人件費支出（アルバイト賃金のみ）の内訳を記入してください。

(2) 各年度の支出内訳については、当該研究の収入内訳の年度に対応する支出を記入してください。

(3) 書類審査の中には「研究費の妥当性」の項目があります。研究との関連が分かりやすいように、**主な消耗品名、旅費の目的、委託手数料、機器備品修理の内容、主な図書名、機器名、アルバイト賃金等を研究計画との妥当性に留意して、記入例を参考に具体的に**記入してください。

(4) 修繕費は、研究用機器備品の修理にかかる支出のうち、その機器備品の原状回復のために要したと認められる支出を対象とします。

(5) 研究所の研究で応募する場合において、当該研究に対する経費の区分ができない場合は、相当額を按分してください。

(6) 「当該研究の支出内訳」の内容については、当該経費がどのように使用されるのか〔様式 2-4〕「研究計画（含方法）・成果」にも記入してください。特に支出合計の 90%を超える大きな割合の費目（特に機器備品費、修繕費、委託費、旅費、アルバイト賃金）がある場合は、当該研究における必要性、妥当性を踏まえて記入してください。

(7) 各年度の支出合計は、**「当該研究の収入内訳」の各年度欄の「合 計（ａ＋ｂ＋ｃ）」と一致**させてください。

(8) 「当該研究の収入内訳」の 2021 年度・2022 年度の欄が科学研究費補助金のみの場合は、「当該研究の支出内訳」の該当年度の「教育研究経費支出」欄に「科学研究費補助金のみで研究」と記載してください。その場合、支出金額の記入は不要です。

〔様式 4-1・様式 4-2〕

※MS 明朝、10.5 ポイントで記入してください。なお、文字数の関係で枠に収まらない場合はフォントサイズを下げても構いません。

１．当該研究における外部資金（補助金、助成金等）の計画について

該当するものすべてに〔レ〕チェックを付してください。

科学研究費補助金、国又は地方公共団体の補助金、民間助成団体の助成金のいずれも申請の予定が無い場合に限り、(1)となります。

２．「2023 年度学術研究振興資金」に応募する当該私立大学等に所属する研究代表者が、当該研究に対して 2021～2023 年度に交付を受けた、又は申請予定の公的資金等

(1) 科学研究費補助金の交付状況（内定、申請予定を含む）

2021～2023 年度交付（内定を含む）を受けた、又は申請予定の科学研究費補助金のうち、当該研究に対して交付されるもののみ記入してください。

交付金額については、「直接経費」のみ記入してください。複数年度で交付されるものであっても、年度ごとに分けて記入してください。

この欄に記入する金額は、〔様式 3〕の「当該研究の収入内訳」の「科学研究費補助金（外数）」欄の各年度の金額とそれぞれ一致します。

(2) 科学研究費補助金以外の公的資金等の交付状況（内定、申請予定を含む）

2021～2023 年度交付（内定を含む）を受けた、又は申請予定の科学研究費補助金以外の国又は地方公共団体の補助金及び民間助成団体からの補助金（個人補助を除く）のうち、当該研究に対して交付されるもののみ記入してください。

この欄に記入する金額は、〔様式 3〕の「当該研究の収入内訳」の「国又は地方公共団体の補助金（c）」欄の各年度の金額とそれぞれ一致します（民間助成団体からの助成金は、「法人負担額（b）」欄の金額に含まれます）。

３．「2023 年度学術研究振興資金」に応募する当該私立大学等に所属する研究代表者が、当該研究と異なる研究で 2021～2023 年度に交付を受けた、又は申請予定の公的資金等

(1) 科学研究費補助金の交付状況（内定、申請予定を含む）

2021～2023 年度交付（内定を含む）を受けた、又は申請予定の科学研究費補助金のうち、**当該研究と異なる研究内容に対して交付されるもののみ記入してください**。複数年度で交付されるものであっても、年度ごとに分けて記入してください。

なお、交付金額については「直接経費」のみ記入してください。この記入内容については、審査にあたっての参考となります。

(2) 科学研究費補助金以外の公的資金等の交付状況（内定、申請予定を含む）

2021～2023 年度交付（内定を含む）を受けた、又は申請予定の科学研究費補助金以外の国又は地方公共団体の補助金及び民間助成団体からの補助金のうち、**当該研究と異なる研究内容に対して交付されるもののみ記入してください**。この記入内容については、審査にあたっての参考となります。

○ 事務担当者名簿

本事業団からの問い合わせに、対応・説明のできる事務担当者の氏名、連絡先電話番号等を記入してください。

なお、電話番号については、できるだけ代表番号ではなく直通番号を記入してください。

○ 応募書類　記入チェックリスト

記入誤り等の多い事項について、チェックリストとしてまとめてあります。記入等の誤りがないか、提出前の最終的な確認をしてください。

○ 提出期限　　令和 4 年 10 月 14 日（金曜日）

○ 提 出 先　　私学事業団電子窓口

生命倫理・安全にかかる指針等について

ライフサイエンスに関する研究については、生命倫理・安全対策の観点から法令や指針等により必要な手続き（機関内の倫理審査委員会の承認等）が定められています。法令等を遵守し、適切に研究を実施してください。

法令等による必要な手続きなど詳細な情報は、以下を参照してください。

○　文部科学省ホームページ「生命倫理・安全に対する取組」
（https://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/index.html）

○　文部科学省ホームページ「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」
（https://www.lifescience.mext.go.jp/policies/dobutsu.html）

なお、法令・指針に違反して研究が実施されていることが判明した場合、資金の交付決定を取り消すことがありますので、ご注意ください。

※　生命倫理・安全対策の観点から手続きを必要とする研究分野を扱う場合は、「学術研究計画調書」の〔様式 2-3〕「研究倫理にかかる手続き」欄に、学内の委員会等の手続きについて記入してください。
（例:「○年○月○日 学内倫理審査委員会において承認 承認番号 00000」など。）

学術研究振興資金　審査部門別系・分野表、応募研究別分科・細目表

［別表1］審査部門別系・分野表

系	分　野					
人文・社会科学系	文学	法学		経済学	教育学	
理工系、農学系	環境科学	工学	農学	家政学	体育学	理学（理工系）※
生物学系、医学系	医　学			理学(生物学系)※		

※「理学」については、「理工系、農学系」と「生物学系、医学系」のいずれかから選択してください

注1:［別表1］審査部門別系・分野表 は、学術研究振興資金の審査部門の分類表です。

注2:研究分野の「医学」には薬学、歯学を 、「理学」には生物学、生物科学、生理人類学（生物系理学）を、「工学」には情報科学、原子力学を、「農学」には動物生命科学を、「文学」には哲学、心理学、社会学、文化人類学、史学を、「法学」には政治学を、それぞれ含みます。

［別表2］応募研究別分科・細目表

分科	細目	分科	細目
地域研究	地域研究	教育学	教育学、教育社会学、教科教育学、特別支援教育、私学高等教育
ジェンダー	ジェンダー	法学	基礎法学、公法学、国際法学、社会法学、刑事法学、民事法学、新領域法学
観光学	観光学	政治学	政治学、国際関係論
哲学	哲学・倫理学、中国哲学・印度哲学・仏教学、宗教学、思想史	経済学	理論経済学、経済学説・経済思想、経済史、経済統計、経済政策、財政・公共経済、金融・ファイナンス
芸術学	美学・芸術諸学、美術史、芸術一般	経営学	経営学、商学、会計学
文化人類学	文化人類学・民俗学	子ども学	子ども学(子ども環境学)
史学	史学一般、日本史、アジア史・アフリカ史、ヨーロッパ史・アメリカ史、考古学	デザイン学	デザイン学
人文地理学	人文地理学	科学社会学・科学技術史	科学社会学・科学技術史
文学	日本文学、英米・英語圏文学、ヨーロッパ文学、中国文学、文学一般	文化財科学・博物館学	文化財科学・博物館学
言語学	言語学、日本語学、英語学、日本語教育、外国語教育	地理学	地理学
心理学	実験心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学	科学教育・教育工学	科学教育、教育工学
社会学	社会学、社会福祉学	ナノ・マイクロ科学	ナノ構造化学、ナノ構造物理、ナノ材料化学、ナノ材料工学、ナノバイオサイエンス、ナノマイクロシステム
数学	代数学、幾何学、解析学基礎、数学解析、数学基礎・応用数学	応用物理学	応用物性、結晶工学、薄膜・表面界面物性、光工学・光量子科学、プラズマエレクトロニクス、応用物理学一般
天文学	天文学	量子ビーム科学	量子ビーム科学
物理学	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理、物性Ⅰ、物性Ⅱ、数理物理・物性基礎、原子・分子・量子エレクトロニクス、生物物理・化学物理・ソフトマターの物理	計算科学	計算科学
地球惑星科学	固体地球惑星物理学、気象・海洋物理・陸水学、超高層物理学、地質学、層位・古生物学、岩石・鉱物・鉱床学、地球宇宙化学	機械工学	機械材料・材料力学、生産工学・加工学、設計工学・機械機能要素・トライボロジー、流体工学、熱工学、機械力学・制御、知能機械学・機械システム
プラズマ科学	プラズマ科学	電気電子工学	電力工学・電力変換・電気機器、電子・電気材料工学、電子デバイス・電子機器、通信・ネットワーク工学、計測工学、制御・システム工学
基礎化学	物理化学、有機化学、無機化学	土木工学	土木材料・施工・建設マネジメント、構造工学・地震工学・維持管理工学、地盤工学、水工学、土木計画学・交通工学、土木環境システム
複合化学	分析化学、合成化学、高分子化学、機能物性化学、生体関連化学、グリーン・環境化学、エネルギー関連化学	建築学	建築構造・材料、建築環境・設備、都市計画・建築計画、建築史・意匠

学術研究振興資金　審査部門別系・分野表、応募研究別分科・細目表

分科	細目	分科	細目
材料化学	有機・ハイブリット材料、高分子・繊維材料、無機工業材料、デバイス関連化学	材料工学	金属物性・材料、無機材料・物性、複合材料・表界面工学、構造・機能材料、材料加工・組織制御工学、金属・資源生産工学
総合工学	航空宇宙工学、船舶海洋工学、地球・資源システム工学、エネルギー学、原子力学、核融合学	プロセス・化学工学	化工物性・移動操作・単位操作、反応工学・プロセスシステム、触媒・資源化学プロセス、生物機能・バイオプロセス
生産環境農学	遺伝育種科学、作物生産科学、園芸科学、植物保護科学	社会・安全システム科学	社会システム工学・安全システム、自然災害科学・防災学
農芸化学	植物栄養学・土壌学、応用微生物学、応用生物化学、生物有機化学、食品科学	健康・スポーツ科学	身体教育学、スポーツ科学、応用健康科学
森林圏科学	森林科学、木質科学	生体分子科学	生物分子化学、ケミカルバイオロジー
水圏応用科学	水圏生産科学、水圏生命科学	情報学基礎	情報学基礎理論、数理情報学、統計科学
社会経済農学	経営・経済農学、社会・開発農学	計算基盤	計算機システム、ソフトウェア、情報ネットワーク、マルチメディア・データベース、高性能計算、情報セキュリティ
農業工学	地域環境工学・計画学、農業環境・情報工学	人間情報学	認知科学、知覚情報処理、ヒューマンインタフェース・インタラクション、知能情報学、ソフトコンピューティング、知能ロボティクス、感性情報学
動物生命科学	動物生産科学、獣医学、統合動物科学	情報学フロンティア	生命・健康・医療情報学、ウェブ情報学・サービス情報学、図書館情報学・人文社会情報学、学習支援システム、エンタテイメント・ゲーム情報学
境界農学	環境農学(含ラウンドスケープ科学)、応用分子細胞生物学、昆虫科学	環境解析学	環境動態解析、放射線・化学物質影響科学、環境影響評価
生活科学	家政・生活学一般、衣・住生活学、食生活学	環境保全学	環境技術・環境負荷低減、環境モデリング・保全修復技術、環境材料・リサイクル、環境リスク制御・評価
神経科学	神経生理学・神経科学一般、神経解剖学・神経病理学、神経化学・神経薬理学	環境創成学	自然共生システム、持続可能システム、環境政策・環境社会システム
実験動物学	実験動物学	社会医学	衛生学・公衆衛生学、法医学、病院・医療管理学、疫学・予防医学
腫瘍学	腫瘍生物学、腫瘍診断学、腫瘍治療学	内科系臨床医学	内科学一般(含心身医学)、消化器内科学、循環器内科学、呼吸器内科学、腎臓内科学、神経内科学、代謝学、内分泌学、血液内科学、膠原病・アレルギー内科学、感染症内科学、小児科学、胎児・新生児医学、皮膚科学、精神神経科学、放射線科学
ゲノム科学	ゲノム生物学、ゲノム医科学、システムゲノム科学	外科系臨床医学	外科学一般、消化器外科学、心臓血管外科学、呼吸器外科学、脳神経外科学、整形外科学、麻酔科学、泌尿器科学、産婦人科学、耳鼻咽喉科学、眼科学、小児外科学、形成外科学、救急医学
生物資源保全学	生物資源保全学	歯学	形態系基礎歯科学、機能系基礎歯科学、病態科学系歯学・歯科放射線学、保存治療系歯学、補綴・理工系歯学、歯科医用工学・再生歯学、外科系歯学、矯正・小児系歯学、歯周治療系歯学、社会系歯学
基礎生物学	植物分子・生理科学、形態・構造、動物生理・行動、遺伝・染色体動態、進化生物学、生物多様性・分類、生態・環境	薬学	化学系薬学、物理系薬学、生物系薬学、薬理系薬学、創薬化学、環境・衛生系薬学、医療系薬学、天然資源系薬学
生物科学	構造生物化学、機能生物化学、生物物理学、分子生物学、細胞生物学、発生生物学	看護学	基礎看護学、臨床看護学、生涯発達看護学、高齢看護学、地域看護学
人類学	自然人類学、応用人類学	脳科学	基盤・社会脳科学、脳計測科学
基礎医学	解剖学一般(含組織学、発生学)、生理学一般、環境生理学(含体力医学・栄養生理学)、薬理学一般、医化学一般、病態医化学、人類遺伝学、人体病理学、実験病理学、寄生虫学(含衛生動物学)、細菌学(含真菌学)、ウイルス学、免疫学	人間医工学	生体医工学・生体材料学、医用システム、医療技術評価学、リハビリテーション科学・福祉工学
境界医学	医療社会学、応用薬理学、病態検査学、医学物理学・放射線技術学、疼痛学		

記入例

学内の文書決裁番号を記入してください。

〔様式 1〕

東 西 学 発 第 4 0 1 号
令 和 4 年 10 月 3 日

日本私立学校振興・共済事業団
理事長　福　原　　紀　彦　殿

学校法人　　東西学園
理 事 長　　東西　太郎

学　校　名　　東西大学
学(校)長　　学術　次郎

2023 年度（第 48 回）学術研究振興資金にかかる研究計画推薦書

2023 年度（第 48 回）学術研究振興資金にかかる研究計画として、下記の研究を推薦します。

記

原則として、研究課題、副題とも30 字以内としてください。（副題はなしでも構いません）

1. 研 究 課 題　　○○○○の×××に関する◇◇◇◇の構築
（副　　　題）　（▲▲における×××の解明に向けて）

フ リ ガ ナ　　ムツキ　イチロウ
2. 研究代表者名　　睦月　一郎

研究代表者は、当該私立大学等の専任教職員であることが要件です。

3. 推 薦 理 由　　○○○○○○・・・

当該研究の特色、社会的要請等を勘案し、記入してください。

以上

6 桁の学校法人番号を記入してください。

法人番号	131999

〔様式2-1〕

記入例

2023年度（第48回）　学術研究計画調書

法人番号	131999	学校法人名	東西学園
学校名	東西大学	研究所名	××××研究所
法人所在地	〒102-9999 東京都千代田区富士見1-10-990		
学校所在地	〒102-9999 東京都千代田区富士見1-10-990		
研究課題	○○○○の×××に関する◇◇◇◇の構築		
副　題	▲▲における×××の解明に向けて		
キーワード	①○○○○　②△△△△　③・・・・・・・・・		

私立大学等が付置する研究所での研究の場合は
研究所名を記入してください。
それ以外の研究については空欄としてください。

研究課題と副題は、
研究計画推薦書〔様式1〕と
一致させてください。

語句の前には①、②、・・・⑧と
番号を付してください。

［別表1］学術資金審査部門別系・分野表の3つの系より
審査を希望する「系」を選択し「レ」チェックを付してください。

研究区分

研究分野	系		人文・社会科学系	レ	理工系、農学系		生物学系、医学系
	審　査 分野※	環境科学	※審査分野については、公募要領18頁の別表１「学術資金審査部門別系・分野表」の12の分野より選択し、記入してください。				
	分科	環境保全学		細目	環境材料・リサイクル		
新規・継続		レ	新規		継続２年目		継続３年目

研究代表者

1971/11/21 または S46.11.21 のように
入力すると、自動的に和暦で表示されます。

生年月日を入力すると
令和4年10月1日時点の
年齢が自動表示されます。

氏　　名	フ リ ガ ナ	生年月日	年齢
睦月　一郎	ムツキ　イチロウ	昭和46年11月21日	50歳

所　属 (学部等)	○×学部○×学科	最終学歴・年度	東西大学大学院（平成8年度卒）
職　名	教授	研究者番号（e-Rad）	99999999

職名、所属等は、原則として
令和4年10月1日現在のものを
記入してください。

数字8桁の研究者番号を
記入してください。

2023年度資金交付希望額	1,200,000　円

〔様式3〕の「2023年度資金交付希望額」と
一致します。
10万円未満を切り捨てて記入してください。

記入例

〔様式 2-2〕

研究組織（研究代表者・研究分担者）

フリガナ 氏　　名	所　　属	職名	最終学歴・年度	役割分担
ムツキ　イチロウ 睦月　一郎	東西大学〇×学部	教授	東西大学大学院 平成 8 年度	研究代表者　総括
キサラギ　ジロウ 如月　二郎	東西大学〇×学部	准教授	東西大学 平成 11 年度	実験・論文作成
ヤヨイ　サブロウ 弥生　三郎	南北大学〇〇研究室	教授	南北大学大学院 平成元年度	実験・データ整理

職名、所属等は、原則として
令和 4 年 10 月 1 日現在のものを
記入してください。

研究分担者には、私立大学等（大学・短期大学・高等専門学校）に
所属する教職員（非常勤でも可）を１名以上記入してください。
研究代表者とは別の私立大学等に所属している研究者でも構いません。
なお、研究分担者のうち１名の所属が私立大学等であれば、
２人目以降には私立大学等に所属していない者が含まれていても構いません。

ページを増やした場合は、法人番号等の枠を
ページごとに設け、記入してください。

法人番号	学校法人名	学校名	研究代表者名
131999	東西学園	東西大学	睦月　一郎

記入例

〔様式 2-3〕

研究目的

○○○……

……

MS 明朝、11 ポイントで記入してください。
ページは増やせません。

当該研究にどのような背景（有用性）があり、
資金交付を希望する年限内（3 年以内）に、
何をどこまで明らかにしようとするのか、
目標は何かが分かるようポイントをしぼり、
具体的に記入してください。

生命倫理・安全対策の観点から
法令等に基づく手続きが必要な研究を扱う場合は
学内の委員会等の手続きについて記入してください。
なお、手続きを必要としない研究の場合は、
「不要」又は「該当なし」と記入してください。

研究倫理にかかる手続き

令和 4 年 2 月 20 日　学内倫理審査委員会において承認　承認番号 12345 番

法人番号	学校法人名	学校名	研究代表者名
131999	東西学園	東西大学	睦月　一郎

記入例

〔様式 2-4〕

研究計画・方法・成果（継続研究の場合は、成果及び進捗状況、達成度を必ず記入してください）

○○○……

MS 明朝、11 ポイントで記入してください。
枠が不足する場合は適宜広げてください。
ただし、用紙は全体（3 年間）で 2 枚以内に収め、
各ページの下に学校法人名等の欄を設けて記入してください。

20XX年度

研究について、3 年間の計画、方法及び成果を、研究の特徴が分かるように、具体的に箇条書きで記入してください。
また、様式 3「当該研究の支出内訳」で記入した内容について、その経費が当該研究の中でどのように使用されるのかについて、具体的に記入してください。
なお、支出合計の 90%を超える大きな割合の費目がある場合には、当該研究における必要性、妥当性を踏まえて、記入してください。

20XX年度

応募年数により以下の①～③の内容を記入してください。
① 新規の応募（の扱い）となる研究：
2023 年度、2024 年度及び 2025 年度の計画・方法
② 継続 2 年目の研究（2022 年度に採択された研究）：
2022 年度の成果又は進捗状況及び現時点の達成度
2023 年度及び 2024 年度の計画・方法
③ 継続 3 年目の研究（2021 年度に採択された研究）：
2021 年度の成果及び達成度
2022 年度の成果又は進捗状況及び現時点の達成度
2023 年度の計画・方法
なお、研究の達成度は、当該年度の研究計画に照らした成果又は進捗状況を踏まえたうえで、以下の区分により、研究目的に対する現時点での自己点検による評価として記入してください。
（区分）
・当初の計画以上に進展している
・おおむね順調に進展している
・やや遅れている
・遅れている

研究が 1 年間又は 2 年間で終了する場合は、終了する年度の欄の最後に「本年度で終了」と記入してください。

20XX年度

ページを増やした場合は、法人番号等の枠をページごとに設け、記入してください。

法人番号	学校法人名	学校名	研究代表者名
131999	東西学園	東西大学	睦月　一郎

記入例

〔様式 2-5〕

研究の独創性及び従来の研究との相違点

○○○

MS 明朝、11 ポイントで記入してください。
ページは増やせません。

以下の点について、詳しく記入してください。
・当該研究の特色及び独創性
・当該研究が、どのような社会的要請に応え、貢献し得るものなのか。
・従来の研究との相違点
（従来の研究に補足されるのか、あるいは新たな組み立てがあるのか）等
なお、従来の研究については、自己の関連研究の成果のみでなく、他の研究者あるいは研究グループによる、主な先行研究の状況・成果も示し、今回の申請とそれらとの差異を記入し、当該研究の位置付けが分かるようにしてください。

学術研究振興資金に応募する以前の研究経過・成果（新規の場合のみ記入してください）

○○○

新規で応募する研究の場合にのみ記入してください。

MS 明朝、11 ポイントで記入してください。
ページは増やせません。

2022（令和 4）年度以前に当該研究グループが行った研究経過、実績を
年度ごとに具体的に記入してください。
また、本資金に応募する以前の研究過程で、どのような研究資金をもとに
研究を行っていたかについても具体的に記入してください。
例）「学校法人の負担のみで研究」、「科学研究費補助金を使って研究」など。

法人番号	学校法人名	学校名	研究代表者名
131999	東西学園	東西大学	睦月　一郎

記入例

研究業績の記入にあたっては「記入要領」のP11、12を必ずご確認ください。

研究代表者は二重下線、研究分担者は下線を引いてください。

〔様式 2-6〕

研究業績

研究者氏名	学会誌・雑誌名、著書名	発表論文名等	発表年（西暦）
睦月　一郎・如月二郎・弥生　三郎	「○○○学会誌」○○○学会 第130号	**睦月一郎**, 如月二郎, 弥生三郎　外4名「・・・・・・・」pp. 35-40	2022年
睦月　一郎	睦月一郎「○○○○」□□出版社	複数ページの場合	2022年
睦月　一郎	睦月一郎, 卯月四郎　外8名, 皐月五郎　外1名(編)「××××」△△書房	第5章「○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」pp. 55-62	2020年
如月　二郎	「○○○ジャーナル」Vol. 32 ○○○研究会	**如月二郎**, 水無月六郎「○○○・・・・・・・・」p. 36	2021年
弥生　三郎	「○△△学会誌」○△△学会 第98号	**文月七郎**, 弥生三郎　外5名「・・・・・・」pp. 70-85	2020年

単ページの場合

当該研究課題に関連の深い研究業績で、学会誌・雑誌名、著書名及び発表論文名等のうち、**主要なものを１人３本（冊）まで選定し、**記入してください。
著者名も単著、共著にかかわらず必ず記入してください。
著者名が多数にわたる場合は、主な著者を数名記入し、共著の著者数を「外○名」と記入してください。
記入にあたっては、〔様式 2-2〕「研究組織（研究代表者・研究分担者）」に記載された者ごとに、最新のものから順に記入してください。ただし、研究組織内の研究者が共同で執筆した共著論文等は、重複記載がないよう、記入例に倣い最初にまとめて記入してください。
なお、**責任著者は MS ゴシック表記**とし、編者についても記入してください。
巻号、出版者、発表論文名等の頁については、記入例に倣って記入してください。
学会口頭発表及び学会予稿集は含めないでください。

（注）「学会誌
とし、応募

当該研究に対する社会的評価（各種受賞歴、新聞・図書・雑誌等への掲載状況など）

○○○・・・・・・・・・

当該研究にかかる各種受賞歴や、新聞・図書・雑誌等への掲載などがあれば記入してください。（ない場合は記入不要です。）

当該研究の研究成果公表の予定

○○○・・・・・・・・・

学会発表、学会誌等に寄稿、研究報告書・出版・シンポジウムなど、当該研究の研究成果の公表予定について、具体的に記入してください。

ページを増やした場合は、法人番号等の枠をページごとに設け、記入してください。

法人番号	学校法人名	学校名	研究代表者名
131999	東西学園	東西大学	睦月　一郎

記入例

国又は地方公共団体の補助金は、学校法人が受け入れるもの（個人補助、科研費を除く）について記入してください。

〔様式4-1〕2に記入する、当該研究に対して科研費が交付される（申請中のものも含む）場合のみ記入してください。

当該研究の収入内訳

	学術研究振興資金（a）	法人負担額（b）	資金対象経費（a＋b）	国又は地方公共団体の補助金（c）	合　計（a+b+c）	科学研究費補助金（外数）
	円	円	円	円	円	円
2021年度（決算）						200,000
2022年度（予算）	600,000	1,000,000	1,600,000	200,000	1,800,000	300,000
2023年度（推計）	1,200,000（10万円未満切捨）	1,200,000	2,400,000	100,000	2,500,000	500,000

民間助成団体からの助成金は、学校法人が受け入れるもの（個人補助を除く）について法人負担額に含めてください。
ただし、企業等からの「受託研究」は該当しません。

	2,400,000 円（60万円以上）	2023年度資金交付希望額（対象経費の1/2以内）	1,200,000 円（10万円未満切捨）

に記入してください）

2021年度（決算）		2022年度（予算）		2023年度（推計）	
教育研究経費支出		教育研究経費支出		教育研究経費支出	
	円		円		円
科学研究費補助金のみで研究		試薬類（○○他）	600,000	試薬類（○○他）	780,000
		器具類（○○他）	450,000	器具類（○○他）	560,000
			50,000	事務用品	30,000
			100,000	出張旅費　2名	160,000
				（東京→福岡　3日間）	
				研究発表のため	
				託費　論文英文校正	20,000
				20枚（5000words）	
				費（○○遠心機の修理）	200,000
小　計		小　計	1,200,000	小　計	1,750,000
設備関係支出		設備関係支出		設備関係支出	
	円		円		円
		コンピューター関連機器	600,000	書籍（○○○）	70,000
				○○解析用○○装置	520,000
				小　計	590,000
				人件費支出（アルバイト賃金のみ）	
					円
				アルバイト賃金	160,000
				実験補助（2名）	
				10日間×8,000円	
小　計		小　計		小　計	160,000
合　計（2021年度の収入内訳「合計（a+b+c）」と一致）		**合　計**（2022年度の収入内訳「合計（a+b+c）」と一致）	1,800,000	**合　計**（2023年度の収入内訳「合計（a+b+c）」と一致）	2,500,000

新規応募の場合でも、「2022年度（予算）」欄は記入が必要です。

科研費のみで研究を行った場合はその旨を記入してください。

当該研究との関連が分かりやすいように、主な消耗品名、旅費の目的、委託手数料の内容、主な図書名、機器名等を具体的に記入してください。
なお、研究者の給与、什器（イス・机など）の取得は経費の対象外です。

主要な支出については、〔様式2-4〕「研究計画」で、その経費が当該研究の中で、どのように使用されるのかについて、具体的に記入してください。
なお、支出合計の90%を超える大きな割合を占める費目がある場合には、当該研究における必要性、妥当性を踏まえて、記入してください。

人数、時給（日給）等の内訳を記入してください。
なお、対象となる人件費は、当該研究にかかるアルバイト賃金（人件費支出・兼務職員給）のみです。

法人番号	学校法人名	学校名	研究代表者名
131999	東西学園	東西大学	睦月　一郎

記入例

〔様式 3〕及び〔様式 4-1〕の 2(1)、(2)の内容と一致させてください。

〔様式 4-1〕

1．当該研究における外部資金（補助金、助成金等）の計画について

下記のうち、該当するものすべてにレ印を付してください。

(1)〔 〕 日本私立学校振興・共済事業団の学術研究振興資金のみ予定している。

(2)〔レ〕 科学研究費補助金をすでに受けている。又は、受ける予定がある。

(3)〔レ〕 国又は地方公共団体の補助金をすでに受けている。又は、受ける予定がある。

(4)〔レ〕 民間助成団体からの助成金をすでに受けている。又は、受ける予定がある。

(2)(3)(4)のいずれも該当しない場合に限り、(1)に〔レ〕を付してください。

2．「2023 年度学術研究振興資金」に応募する当該機関所属の研究代表者が、当該研究に対して 2021 ～ 2023 年度に交付（内定を含む）を受けた、又は申請予定の公的資金等

(1) 科学研究費補助金の交付状況（内定、申請予定を含む）

交付金額については、「直接経費」のみ記入してください。

この欄に記入する金額は、（様式 3）「当該研究の収入内訳」の「科学研究費補助金（外数）」欄の金額と一致します。

複数年度で交付されるものであっても、年度ごとに分けて記入してください。

年度（西暦）	名称	役割（代表・分担の別）	研究課題	金額
2021	科学研究費(基盤研究 A)	分担	○○の××に関する研究	200 千円
2022	科学研究費(基盤研究 A)	代表	○○の××に関する研究	300 千円
2023	科学研究費(基盤研究 A) 申請予定	代表	○○の××に関する研究	500 千円
				千円
				千円

今回応募する研究の研究代表者が取得した科学研究費補助金のみ記入してください。

〔様式 3〕「当該研究の収入内訳」の「科学研究費補助金（外数）」の欄の各年度の金額と一致します。

(2) 科学研究費補助金以外の公的資金等（国又は地方公共団体の補助金及び民間助成団体からの助成金）の交付状況（内定、申請予定を含む）

この欄に記入する金額は、（様式 3）「当該研究の収入内訳」の「国又は地方公共団体の補助金（ｃ）」欄の金額と一致します（民間助成団体からの助成金の場合は「法人負担額（ｂ）」欄の金額に含まれます）。

年度（西暦）	名称	役割（代表・分担の別）	研究課題	金額
2022	○○県学術研究助成	代表	○○の××に関する研究	200 千円
2023	○○県学術研究助成 申請予定	代表	○○の××に関する研究	100 千円
2023	○○財団助成金 申請予定	代表	○○の◇◇による新しい分析	300 千円
				千円

他の公的機関の補助金（個人補助を除く）は〔様式 3〕「当該研究の収入内訳」の「国又は地方公共団体の補助金（ｃ）」欄の各年度の金額と一致します。

民間助成団体からの助成金（個人補助を除く）は、〔様式 3〕「当該研究の収入内訳」の「法人負担額（ｂ）」の金額に含まれます。

131999	東西学園	東西大学	睦月　一郎

記入例

〔様式 4-2〕

３．「2023 年度学術研究振興資金」に応募する当該私立大学等に所属する研究代表者が、当該研究と異なる研究で 2021～2023 年度に交付を受けた、又は申請予定の公的資金等
この記入内容については、審査にあたっての参考となります。

(1) 科学研究費補助金の交付状況（内定、申請予定を含む）
交付金額については、「直接経費」のみ記入してください。

年度（西暦）	名称	役割（代表・分担の別）	研究課題	金額
2021	科学研究費(基盤研究 C)	分担	××に関する基盤研究	1,000 千円
2022	科学研究費(基盤研究 B)	代表	△△の機能解析と○○の解明	1,000 千円
				千円
				千円
				千円

分担の場合は、分担金の金額（直接経費）を記載してください。
応募時点で正確な金額がわからない場合は、おおよその金額を記入してください。

(2) 科学研究費補助金以外の公的資金等（国又は地方公共団体の補助金及び民間助成団体からの助成金）の交付状況（内定、申請予定を含む）

年度（西暦）	名称	役割（代表・分担の別）	研究課題	金額
2021	○○財団助成金	代表	△△の機能解析と○○の解明	500 千円
2023	○○財団助成金 申請予定	分担	○○の××機能の研究	100 千円
				千円
				千円

法人番号	学校法人名	学校名	研究代表者名
131999	東西学園	東西大学	睦月　一郎

記入例

2023年度　学術研究振興資金　事務担当者名簿

法　人　番　号	131999	フリガナ	トウザイガクエン
		学校法人名	東西学園
学　校　法　人 本　部　所　在　地	〒102-9999 東京都千代田区富士見1-10-900		
学　校　法　人 連　絡　先　住　所	〒102-9999 東京都千代田区富士見1-10-990		

フリガナ	トウザイダイガク
学　　校　　名	東西大学
学　　校 連　絡　先　住　所	〒102-9999 東京都千代田区富士見

今回応募する研究にかかる研究代表者名を記入してください。
（学校法人代表者ではありません）

研究代表者名	睦月　一郎

今回の応募について、私学事業団からの問い合わせに対応・説明のできる方を記入してください。

事務担当者（今回の応募について、私学事業団からの問い合わせに対応・説明のできる事務職員の方）

所属課・役職等	氏　名（フリガナ）	連　絡　先	
研究支援課　課長	トウザイ　イッペイ	TEL	03-3230-7319
	東西　一平	FAX	03-3230-8223
		E-Mail	ippei@touzai-u.ac.jp
所属課・役職等	氏　名（フリガナ）	連　絡　先	
研究支援課　第一係長	シガク　ニヘイ	TEL	03-3230-7320
	私学　二平	FAX	03-3230-8223
		E-Mail	shigaku@touzai-u.ac.jp
所属課・役職等	氏　名（フリガナ）	連　絡　先	
総務課　総務係　職員	ガクジュツ　サンペイ	TEL	03-3230-1321
	学術　三平	FAX	03-3230-1325
		E-Mail	gakujutsu@touzai-u.ac.jp

電話番号は、できるだけ代表番号ではなく、
直通の番号をご記入ください。